

女性目線で考える、観光産業を活かしたキャンプ事業

愛媛大学法文学部人文社会学科福井ゼミナール(指導教員 福井秀樹)

代表者:竹内真衣

発表者:石井友華、竹内真衣、西山明里

参加者:石井友華、竹内真衣、西山明里

梗概

「地域の活力につながる産業の活性化」というテーマに基づき、私たちが提案するのは「女性目線で考える、観光産業を活かしたキャンプ事業」である。

南伊勢町は、町域の約6割が伊勢志摩国立公園に指定されている海に面した自然豊かなまちである。その一方で、全国で少子高齢化が問題となっているように、南伊勢町も例外ではない。南伊勢町では、0～14歳の年少人口の減少だけでなく、20歳～44歳の親にあたる若者世代の男女ともに、全国平均や三重県平均より未婚率が高くなっており、晩婚化、未婚化の傾向が進んでいる。そのため、特に親にあたる若者世代の女性を呼び込むことが課題である。

また、若者の流出の一つの要因として、交通や生活の不便さが挙げられる。そこで、私たちは、そのような「不便」を楽しむことができるのは「キャンパー」であると考え、地域資源に恵まれた南伊勢町はキャンプに最適な地であると共に、新型コロナウイルスの影響でキャンプ需要がますます高まっているという現状を活かし、政策を提案する。フィールドワークとヒアリングの2つのアプローチを踏まえ、南伊勢町の豊かな地域資源を最大限に生かすことが出来る政策を提案する。さらに、発表者全員が女性であることを活かし、女性が気軽に訪れたいと思えるようなキャンプ事業を提案することを強調したい。

まず第1章では、南伊勢町の現状と課題を分析し、観光業との位置付けを考える。第2章では、先行研究とフィールドワーク、ヒアリングの結果をもとに、南伊勢町のキャンプ場についての現状と課題を記述する。第3章では、分析や現地調査を踏まえて、南伊勢町の課題に沿った具体的な観光政策を提案する。

第一章 南伊勢町の現状と課題

1-1 南伊勢町の現状分析

南伊勢町は、三重県の南部に位置し、奥志摩として親しまれている。美しいリアス式の海岸や伊勢神宮の自然林から続く豊かな森、温暖な気候などにより、豊かな農林漁業や食文化などが魅力で農村と漁村が共存する独自の文化が特徴である。山の緑と海岸が織りなす調和の取れた自然は豊かで美しく恵に溢れ、「伊勢の南玄関」として知られている。町の主要な産業のひとつが漁業であり、国内5番目、県内では最も多い漁獲量を誇る。最近では鯛の養殖が盛んである。

また、農業においては温州みかんをはじめとした柑橘類の栽培が盛んであり、一部はブランドみかんとして流通が行われている。さらに、南伊勢ブランド認定事業として、南伊勢の豊かな自然、独自の資源および伝統的な加工技術などを活かした本物の南伊勢ものにこだわった魅力ある産品等を認定し、広めている。

観光業においては、自然を活かしたマリンレジャーや農業体験をすることが出来る場所が多くある。また、2015年に恋人の聖地としても認定された見江島展望台をはじめとするいくつかの展望台があり、南伊勢町の海、山、空、漁村など美しい景観を一望することが出来る。昼には夕日、夜には澄んだ空気のもとで満天の星空を一望することが可能である。そして、近年では映画やドラマ等のロケ地になり、ロケ地巡りに訪れる観光客もいる。地元グルメも豊富であり、南伊勢の新鮮な海の幸や、果物を堪能することができる。

しかしながら、産業全体の就業者数は減少の一途を辿っている。そこには、南伊勢町の人口減少と少子高齢化の影響が深く関わる。南伊勢町の人口は、2015年の国勢調査によると、12,788人だ。南伊勢町の人口のピークは1960年の32,070人であり、全国並びに三重県の平均よりも約50年早いピークを迎え、減少し続けている。2015年の人口における年代別の割合は0～14歳（年少人口）で6.7%、15～64歳（生産年齢人口）で44.1%、65歳以上（高齢者人口）で49.1%と、総人口の約半数以上が高齢者となっている。また、2015年の国勢調査を基にした将来推計人口では、30年後の2045年には人口が約70%減少し、年少人口比率は約2.9%、生産年齢人口比率は約25.9%、高齢人口比率は約71.2%になると推計されている。今後、人口減少の加速化と同時に少子高齢化が急激に進行すると、将来自力でのまちづくりが困難になるとともに、南伊勢町消滅の危機に直面することも考えられる。このことから、将来に向けた早急な対応が必要となっている。2019年に策定された南伊勢町総合計画では、南伊勢町V字回復戦略が掲げられ、30年後の目指す姿の実現に向けた10年ごとの戦略の節目を想定した人口減少に対する戦略計画が立てられている。

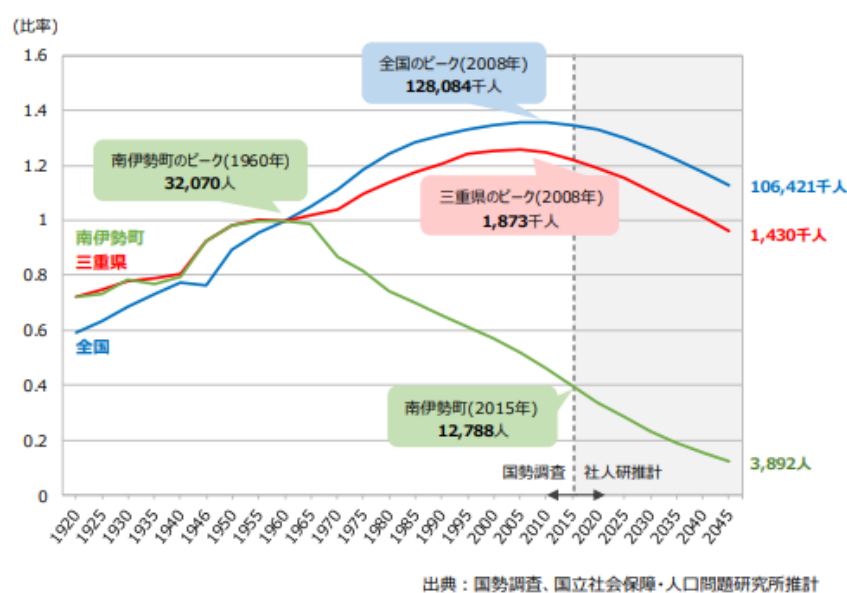


図1 全国・三重県・南伊勢町の総人口の推移(1960年を1とする)

(出典：南伊勢町総合計画)

1-2 南伊勢町の課題

南伊勢町へのアクセスは、車を利用した場合、大阪から3時間、京都から2時間半、名古屋から2時間、伊勢から30分である。また、公共交通を利用すると、伊勢市駅から三重交通バスで1時間程度である。町内には鉄道がないことから、車で移動することが推奨される。実際に町民のほとんどが車で移動しており、車に乗らず民間路線バス、町営バスなどの公共交通機関を利用する町民は大きく分けて、運転免許を持っていない小中学生、高校生、運転することができない高齢者となっている。通勤、通学、通院、買い物等の交通の不便さが人口流出の要因の一つと考えられる。南伊勢町の人口動態について、転出では、男女ともに15～24歳の間に多く転出しており、進学・就職による転出であると考えられる。また、転入については、男女ともに20～44歳の間が多く、就職、転職などの仕事の都合や親族との同居のための転入となっているが、転入者数は転出者数と比べ約30%と低い割合になっている。さらに、20～44歳の親となる世代の女性に焦点を当てると、やはり、同世代の女性の転出数が転入数を大幅に上回っており、特に2010年と2015年の国勢調査を比較すると、2015年は、転入者の倍以上の転出者がおり、さらに転入者の減少が顕著になっている。

また、南伊勢町では、安心安全なまちづくりのため、地震、津波の対策として「南伊勢町地震強靱化計画」や「南伊勢町地域防災計画」策定している。しかし、依然として津波被害が懸念される地域もあり、地震、津波対策は南伊勢町の「暮らしやすさ」のために非常に重要な課題であろう。

1-3 テーマの概要

私たちは、南伊勢町の人口増加を目指すにあたり、最初に交流人口を増やすことが重要

であると考えた。観光を通じた交流人口の増加を図り、南伊勢町の魅力に触れてもらうことで、リピーターの増加を目指す。その後、移住・定住人口の増加を図る。

そこで私たちは、「女性目線で考える、観光産業を活かしたキャンプ事業」について提案する。新型コロナウイルスの影響でキャンプがブームとなったことで、「ソロキャンプ」は流行し、男性キャンパーだけでなく、女性キャンパーも増加した。「オートキャンプ白書 2022」から、2021 年のオートキャンプ参加人口は前年比 23%増の 750 万人だったことが分かる。さらに、デザイン性の高いキャンプグッズが製作され、多くの女性キャンパーが SNS や書籍で美味しいご飯やおしゃれなキャンプ服といったキャンプ事情を発信している。一方で、南伊勢町のキャンプ場に調査に伺った際に、利用客の男女比を見ると、男性の方が明らかに多いことが分かった。これらのことから、今回の提案では、女性が訪れたいと思う南伊勢町の魅力、特徴を生かしたキャンプ事業、キャンプイベントを展開することで、女性、ひいては若年層の男女や子供を連れた家族の観光客の増加を図る。

また、オートキャンプとはホテルなどを使わずテントや簡易宿泊施設を利用して景観を楽しみながら旅行をするものであるため、キャンパーはテントや寝袋、料理道具等、様々なものを運ぶ必要があり、比較的車を持っている人が多い。何でも揃っているうえに便利で快適なホテルに宿泊するのではなく、キャンプをする理由の一部として、「不便を楽しむ」「人混みを避ける」「静けさを楽しむ」「孤独を楽しむ」ことが挙げられる。前述した通り、南伊勢町の課題の 1 つとして交通面での不便性が挙げられるが、キャンプ事業ではその点を活用することが出来る。

そして、「キャンプ白書 2021」によると、キャンプをする理由として、「自然の中でのびのびと過ごすことが出来る」「非日常の生活を楽しむことが出来る」「子どもの成長のため」といったものが挙げられる。南伊勢町では、豊かな山と海の両方があり、その恩恵を受ける美味しい地元の食材も堪能することができる。日常から解放され、ゆったりと穏やかな時間を過ごすことができ、非日常を体験することが出来るだろう。また、子どもの成長や家族の時間をつくることを目的とする人も多いことから、若者や女性の観光客の増加も期待できる。

第二章 日本及び南伊勢のキャンプの現状

2-1 キャンプの参加人口とその内訳

南伊勢町の「地域の活力につながる産業の活性化」を目標にするうえで、私たちはキャンプ事業を提案した。この章では、キャンプの日本における具体的な現状について見ていきたい。

図 1 は、日本における「キャンプの参加人口の推移」である。2016 年にキャンプに参加した人口は約 730 万人で、10 年前 2006 年に比べると 108 万人程度増加していた。日本におけるキャンプは増加傾向にあるとみてよいだろう。

キャンプ参加人口の推移

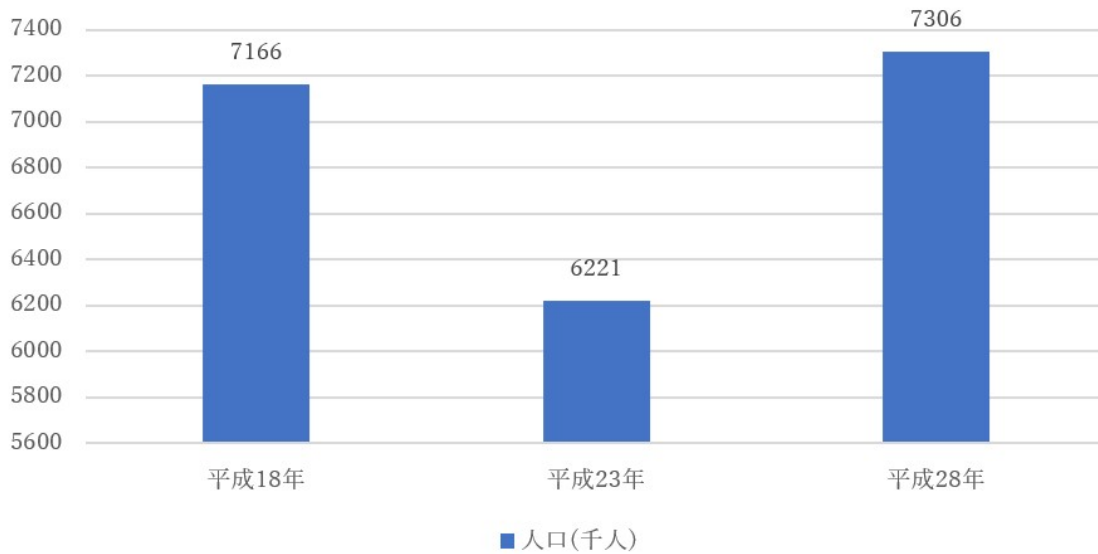


図 1 キャンプ参加人口の推移

出典) キャンプ白書 2021 総務省統計局「平成 18 年度社会生活基本調査」「平成 23 年度社会生活基本調査」「平成 28 年社会生活基本調査」

そして、図 2「キャンプの同行者」を見ると、2019 年のキャンプ同行者で最も多いのが、「子供連れ」であり、半数以上の 57.2%となった。続いて「他の家族と」23.9%、「夫婦だけ」18.1%、「1 人(ソロキャンプ)」9.4%である。一方、「女性グループ」1.3%と非常に少ない。また、近年の傾向としてソロキャンプが増加している。

キャンプの同行者

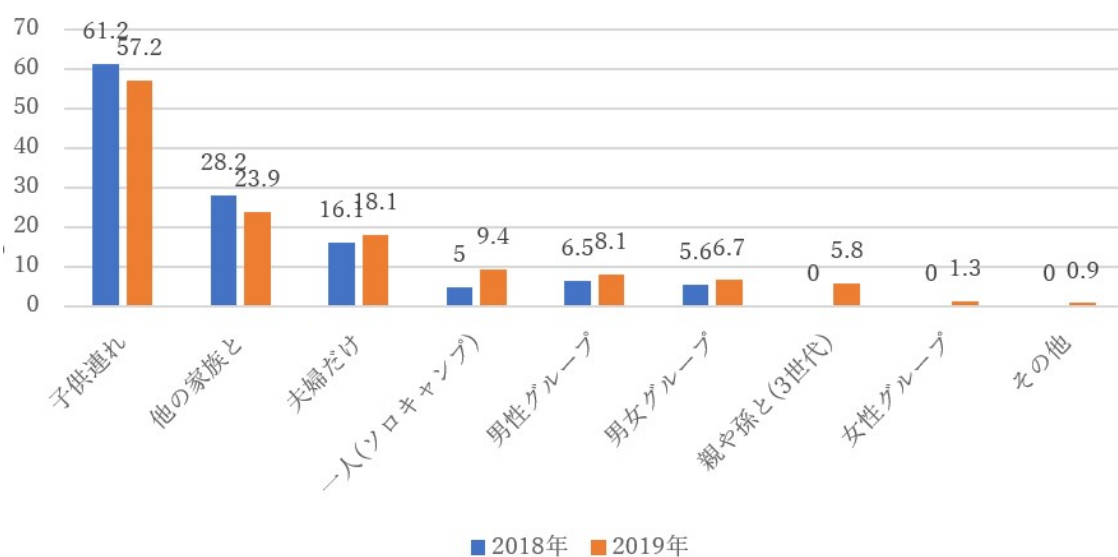


図 2 キャンプの同行者

出典) 一般社会法人日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書 2020」

2-2 キャンプの活動内容

図3から「キャンプ場での好きな過ごし方」は、「バーベキューや野外料理を楽しむ」が67.2%と最も多く、「焚火をする」49.6%、「家族だけで団欒を楽しむ」47.0%である。2009年のデータと比較すると、「焚火をする」の項目について大幅に増加している。

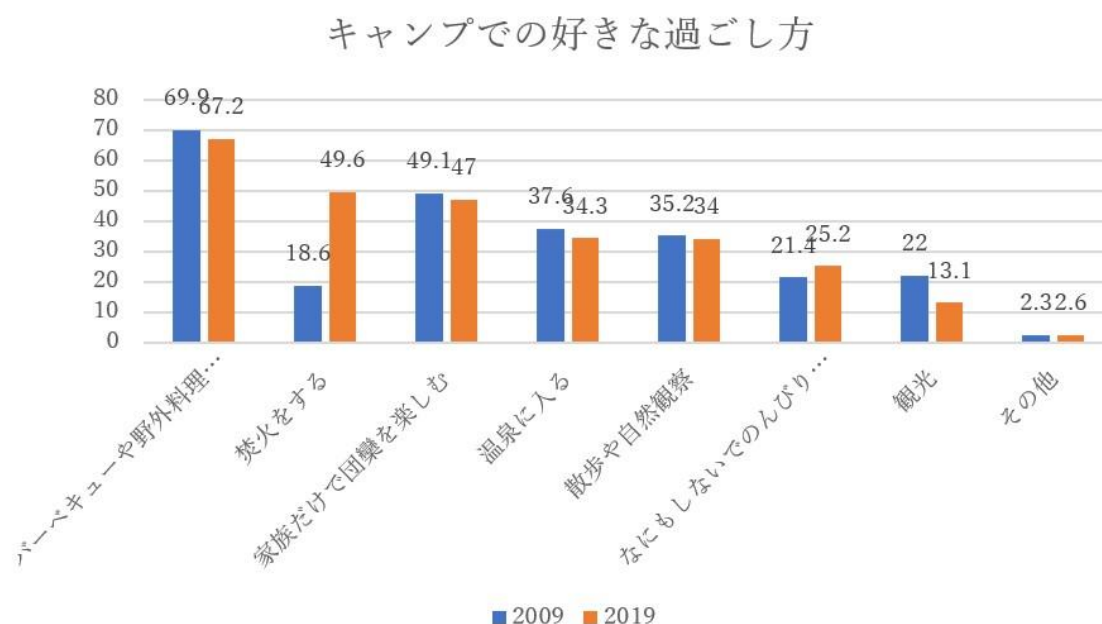


図3 キャンプでの好きな過ごし方

出典) 一般社会法人日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書 2020」

図4での「キャンプの魅力を感じる点」に関して、2019年は「家族との団欒」40.8%と最も多く、続いて「自然の触れ合い」36.6%、「解放感(のんびりできる)」32.8%となっている。10年前の2009年に比べ、「家族との団欒」「自然とのふれあい」「経済的なレジャー」が大幅に低下している。このことから、キャンプにおいて人それぞれの楽しみ方ができ、キャンプの魅力が多様化していると考えられる。

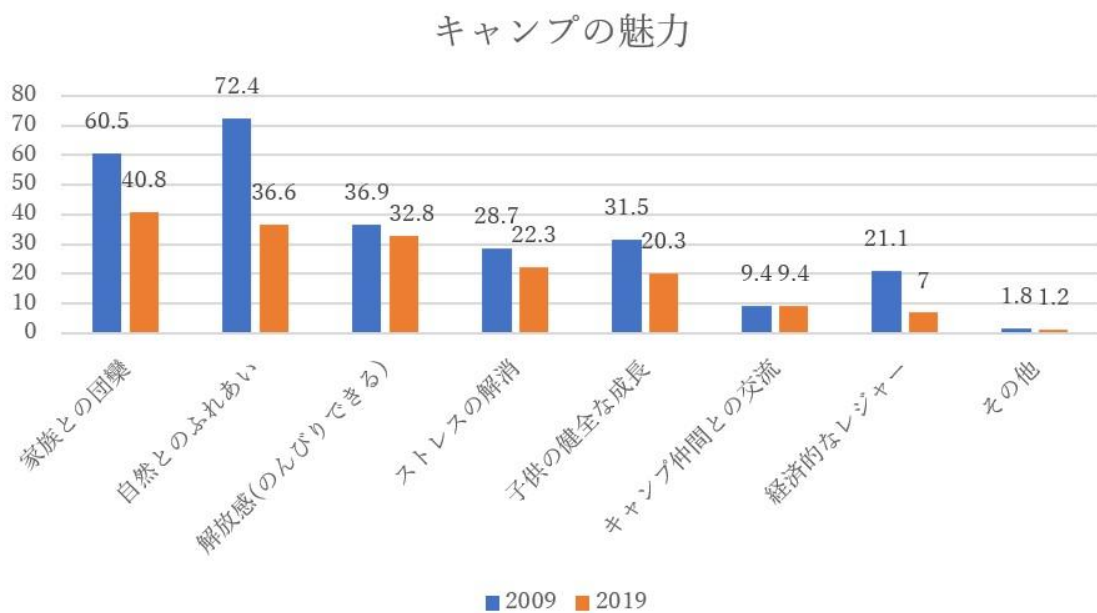


図 4 キャンプの魅力

出典) 一般社会法人日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書 2020」

2-3 キャンプを実施する時期

2019年の1年間にキャンプを実施した月は、9月が60.5%と最も多く、続いて8月49.0%、5月45.2%、10月32.2%で、涼しい秋や、夏休み、ゴールデンウィークなどの長期休みがある月が多いことがわかった。しかし、2018年と比較すると、7月と8月を除くすべての月で2019年が前年を上回っており、キャンプのシーズンが広がっている傾向がある。また、近年注目されている冬キャンプの効果も現れている。

年間でキャンプを実施した月

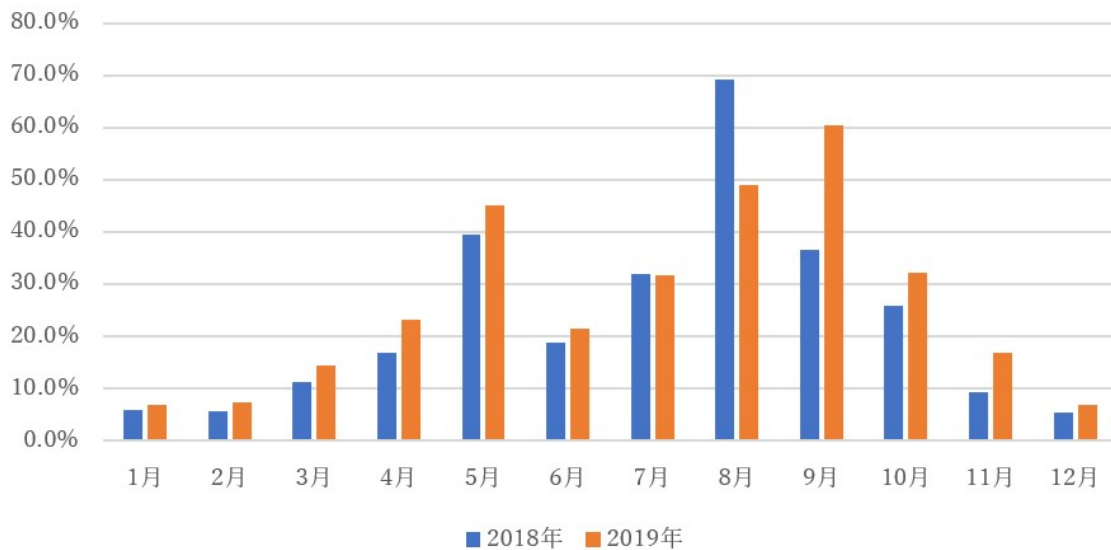


図 5 年間でキャンプを実施した月

出典) 一般社団法人日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書 2020」(令和 2 年 7 月)

2-3 南伊勢町におけるキャンプの現状

南伊勢町においては、様々な形のキャンプ場が経営されている。私たち福井ゼミナールは、南伊勢町に構えているキャンプ場の関係者様にお話を聞く機会をいただいた。

今回調査を行ったキャンプ場は、2four Camp 様、田曾白浜リゾート様、浮島パークなんとう様である。場所は右の図の通りである。

今回南伊勢町の 3 つのキャンプ場で現地調査・ヒアリングを行った。日程は次の通りである。

2022 年 9 月 24 日 2four camp 様 ヒアリング

2022 年 9 月 27 日 2four camp 様 田曾白浜リゾート様 現地調査・ヒアリング

2022 年 9 月 27 日～28 日 浮島パークなんとう様 現地調査・ヒアリング



図 5 キャンプ場の位置 (出典 : Google map)

2four Camp：会員制オートキャンプ場

2022年9月24日に2 four Campの運営をされている翔大さんに、zoomでお話を伺った。また、9月27日には実際にキャンプ場に足を運び、視察を行った。お話から学んだことは以下の通りである。伊勢市、鳥羽市がキャンプ事業で栄えている一方で、南伊勢町は交通の便が不便であるため、あまりキャンプ事業は行われておらず、競合は少ない傾向である。

キャンプの立地に関して、海に近いキャンプは存在するが、海に面しているキャンプ場は、伊勢志摩には少ない傾向にある。

南伊勢町全体では、山でのキャンプ場が比較的に多い。

キャンプの繁忙期としては、夏が増加傾向にある。伊勢志摩はリアス式海岸であり、南伊勢町は特に入り組んでいる。夏の訪問者は海水浴等、外で遊ぶ、バーベキューを行うといったアクティビティをするが、一方で冬には、焚火を楽しみにキャンプに訪れる。また、長期休暇などが無い月の場合、キャンプ利用者は土日休日に訪れることが多い。

訪れるキャンパーは、伊勢市から北の三重県内の方が多い。県外の利用者は、愛知県、静岡県、京都府、大阪府といった高速道路を使用し、1～2時間でアクセス可能である場所であるようだ。オートキャンプ場においては、ソロキャンパーが多く、女性は少ない。Instagram等、SNSによるキャンプ場宣伝では、反応の70%は男性であることをうかがえた。

現地調査を行い、2 four Camp様は、キャンプ上級者向けのキャンプ場であるという印象を受けた。また、近くには海と山があり、自然豊かな空間でゆったりと落ち着いたキャンプを行うことが可能であると感じた。



図6 2 four Camp 様

田曾白浜リゾート様：TASO FOREST CAMP, TASO FOREST MARINA, TASO BEACH HOUSE, 田曾白浜オートキャンプ場 海や山といった自然を生かした融合キャンプ場

2022年9月27日に田曾白浜リゾート様で現地調査を行った。TASO FOREST CAMP、TASO FOREST MARINAでは、若者向け若年層、子供を連れた家族が多い。田曾白浜オートキャンプ場に関しては、女性も訪れるが、男性のソロキャンプの方が多い傾向にある。愛知



図7 TASO FOREST CAMP 様

県、奈良県、大阪府といった三重県近辺の人が訪れる。

キャンプ場繁忙期は、7月～9月前半であり、1日に従業員をおよそ全員導入してするが、一方で、冬の閑散期に入れば従業員は約半分で業務に携わる。

グランピング×スカイダイビング×マリンスポーツと陸海空どれにも対応しており、またアクティビティが多く、様々な年齢層の方が楽しむ。

現地調査を行った印象としては、比較的自由にキャンプを楽しむことができ、オートキャンプ場だけでなく、コテージなどの宿泊施設、食事が出来るカフェなどもあるため、初心者の方でも利用しやすい印象を受けた。



図8 FOREST MARINA から見た海

浮島パークなんとう様：コテージ、オートキャンプ場

2022年9月27日から28日にかけて、実際に浮島パークなんとう様に宿泊をし、ヒアリングや現地調査を行った。浮島パークなんとう様は、繁忙期はゴールデンウィークやお正月、7月末～8月であり、非常に立派なコテージには、家族で訪れる方が多い。一方で、オートキャンプ場では、家族で訪れる人もいれば、若年層のソロキャンパーも訪れるようだ。主なアクティビティ



図9 浮島パークなんとう様

として、魚を釣るという目的の方が多いいことを伺った。また、大阪府、愛知県名古屋市といった高速道路でアクセス可能な場所からの利用者もいる。

実際に現地調査を行い、コテージに宿泊することで、調べるだけでは分からなかった施設の雰囲気を知ることが出来た。施設が管理人の方によってきちんと整備された環境であるということや、豊かな自然に囲まれ、落ち着いた環境の中で過ごすことが出来るということが分かった。

上記のキャンプ場の特徴を表にまとめた。

キャンプ場名	主な施設・アクティビティ	キャンプ可能なグループ数(推定)・区画サイト数	特徴
2 four Camp	・男女別トイレ ・炊事場・流し台 ・飲料販売 ・薪販売 ・海産物 ・冷蔵庫 1 台 ・グッズ販売 ・シーカヤック ・ライフジャケット等	6 区画	比較的キャンプに慣れた人、ソロキャンパー、静かに楽しみたい人向け。内海・静かな海に面している。SUP などに適していると考えられる。
田曽白浜リゾート	○ TASO FOREST MARINA (森のヨット型グランピング) ○TASO FOREST CAMP (ベルテントで過ごすグラマラスなキャンプ場) ○TASO BEACH HOUSE (海を目の前にしたサウナ付き絶景コテージ)	○ TASO FOREST MARINA 3 つ ○ TASO FOREST CAMP 3 つ ○ TASO BEACH HOUSE 3 つ	キャンプ初めての方でもまったく問題ない。どちらかと言えばグループで楽しみたい方向け。アクティビティの豊富さと海岸風景は絶品。外海・広い砂浜に面している。
浮島パークなとう	○コテージ ・トイレ ・お風呂 ・冷暖房(コイン式) ・キッチン 等 ○オートキャンプ場 ○炊事棟 ○BBQ ハウス	○コテージ 4 名用 3 棟、6 名用 2 棟 ○オートキャンプ場 9 区画	キャンプに慣れた方、初めての方のいずれも問題なく楽しめる。立派なコテージ、研修施設、大浴場もあるため、イベント開催にも適している。内陸に位置し山に面している。

このように全てのキャンプ場にそれぞれの色があり、利用客の年齢や男女比、利用する目的など、様々な違いがあることや、南伊勢町には多様なニーズに応えることのできるキャンプ場が多くあることが分かった。

また、今回はヒアリングを行うことが出来た 3 カ所のキャンプ場をもとに政策を考えたが、その他にも南伊勢町には多くのキャンプ場があるため、政策を行っていくうえでさら

に範囲を拡大し、町全体を盛り上げていきたいと考えている。

2-4 南伊勢町のキャンプ事業の課題

ヒアリング調査を終え、主に大きく3つの点を課題とした。

① オートキャンプの女性キャンパーが少ない事

南伊勢町だけでなく、全国的にみてもキャンプ場において女性客は少ない。特にオートキャンプ場においては、女性一人で行うにはハードルが高いこともあり、さらに女性客が少ないのではないかと考えた。また、いずれのキャンプ場においても現時点では女性限定のイベントは考えていない。

② 人材の調整

休日や繁忙期は利用者が増加するため従業員が多く必要であり、全従業員が出勤するといった体制が取られる。繁忙期は人材不足とみられる一方で、閑散期は従業員の半分程度が出勤すればよいといった、人材には余裕を持たせており、人材の調整が非常に困難である。平日も同様に利用者は少なくなり、従業員を持て余すといった状態になるだろう。

③ 各キャンプ場が独立している

南伊勢町にあるキャンプ場は、ターゲットそれぞれ異なっている印象が強かった。他の地方の人に「南伊勢町はキャンプ事業が活発」と認知してもらうためには、各キャンプ場が個性を発揮しながら互いに協力し合うことで何か新しいことが展開できる可能性がある。

私たちは、南伊勢町の人口増加を目指すにあたり、まずは観光を通して南伊勢町の魅力に触れてもらうことで、交流人口を増やし、さらにリピーターの増加を目指す。その後、移住・定住人口の増加を図る。また、今回の現地調査・ヒアリングを通して、利用客の男女比を見ると、男性の方が明らかに多いことが分かった。そのため、今回女性が訪れたいと思うキャンプ事業を展開することで、女性の観光客の増加を図ることを狙いとする。

第3章 提案

3-1 政策概要

これらの現状を踏まえたうえで、私たちは女性目線で、キャンプ事業を通じた地域活性化に繋がる政策を考えた。

前述した通り、全国のキャンプ場や南伊勢町のキャンプ場において女性向けのキャンプ場やイベントはまだまだ少ないため、満たされていなかった需要にアプローチしていく。

政策を考える上で、既存のキャンプ場を貸していただいてイベント等を行うことを提案する。

3-2 政策提案 I

南伊勢町の課題の1つである少子化や若者の転出というところに焦点を当てたキャンプイベントを大きく3つ提案する。

① 親子で学ぶ防災キャンプイベント

1つ目は、地震や災害が起こった際の停電を想定して、キャンプの道具を活かしてどのように対応するのかを親子で学ぶキャンプ体験イベントを提案する。最近では、「防災」の

面からキャンプ道具を購入する方も増えている傾向であるため、南伊勢町の課題の1つである地震・津波対策とも関連付けることで、いざという時に対応する力を身に付けることができ、町民の危機管理意識を高め、知識を身に付けることが出来る。また、キャンプと絡めることで、親子で参加しやすくなり、親子共に交流することができる場になると考える。

参加者については、地元の方だけでなく、遠方の方も対象にする。遠方の方には、実際に被災したという前提で、自動車に来て頂き、防災キャンプを行う。

【例】親子で楽しめる！キャンプ道具を使用した「防災キャンプ」

被災した状況を想定したワークショップである。最初は火のおこし方から始まり、焚火を使用した電気なしでの暖かいご飯の炊き方、野草の見分け方、調理方法、川や雨水を飲料水へ変化させる浄化方法といった災害時に役に立つスキルを身に付けていく。親子で行うことにより、更に親子間でのコミュニケーションが増えるだけでなく、キャンプ道具を使用した非常時の対策を親子で把握し、学び、今後の対策に繋げる。

場所は、子どもがいるということから、浮島パークなんとう様で行うことが望ましいと考える。家族連れでの宿泊が多いことや、子どもが転んでも怪我をしにくい芝生であること、9区画のオートキャンプ場は見晴らしがよく、講師の人を見やすいということなどが理由として挙げられる。

② 出会いを求めるキャンプイベント

2つ目は、南伊勢町での女性人口の増加や、出会いの場所づくり、出生率の向上に目を向けたイベントとして、共通の趣味を持っている人が集まるキャンプイベントを提案する。

【例】映画鑑賞が趣味の人を集めたキャンプイベント

同じ趣味を持っているということで、会話も弾み、普段生活しては出会わない人と出会うことが出来る。夜にはアウトドアシアターを行い、南伊勢町の美しい星空の下で映画を観る。このようなイベントを通して、南伊勢町に交流の場を設けることで、交流人口の増加に繋がると考える。さらに、南伊勢町を思い出の場とすることで、リピーターの増加にもつながるのではないかと考える。

他にも、正月やクリスマス、ハロウィーン、七夕など季節の行事を活かしたイベントを開催し、定期的に町全体を盛り上げていく。イベントでは、宣伝としてSNSをうまく活用し、大きなハッシュタグをたくさん使用する。例えば「クリスマス」はInstagramであれば1038万件(2022年10月現在)、「七夕」であれば175万件(2022年10月現在)というように多くの人々が投稿しているため、キャンプイベントは更に周知されやすくなるだろう。さらに言えば、日本国内だけでなく、海外に南伊勢町をアピールする機会にもなる。参考として、Instagram内の「#christmas」は1.7億件(2022年10月現在)もの投稿がある。

【例】クリスマスキャンプ

南伊勢町や三重県内の男性6人、女性6人を集め、キャンプを行う。クリスマスキャンプは12月24日、12月25日の二日間行われ、自然観察、アウトドアクッキング、ゲーム、焚火、星空観察といった様々なアクティビティを体験することが可能である。男女の様々な資格や経験があるスタッフがサポートし、また積極的に男女が話すことができる機会が

得られるように、例えば男女2人1組でのアウトドアクッキングを行う等、工夫する。

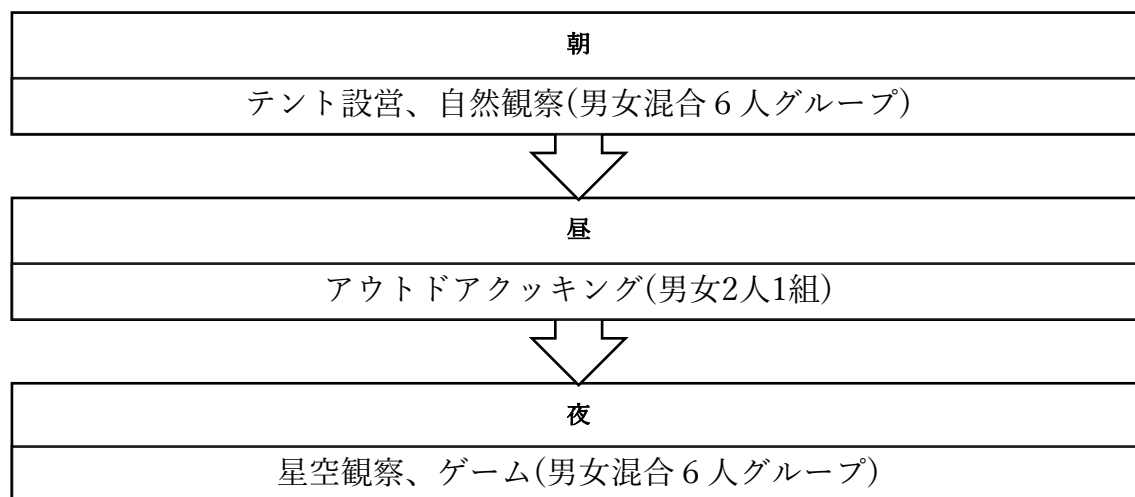


図 10 クリスマスキャンプ 12 月 24 日の様子

場所は、参加人数が多い場合は、面積が広く、さまざまなイベントに対応しやすいことや、海やライトなど全体の雰囲気を考えて、田曽白浜リゾート様で行うことが望ましい。また、参加人数が少人数のイベントの場合は、静かで落ち着いた雰囲気の 2 four Camp 様で行うことが望ましいと考える。

③ THE TAIMI HOUSE～女性に向けたキャンプ場～

3つ目の提案として、全国のキャンプ場や南伊勢町のキャンプ場において、女性向けのキャンプ場やイベントは少ないという現状に目を向けて、女性限定のキャンプイベントや、女性キャンプ DAY をつくるのが効果的であると考えた。前述したとおり、南伊勢町にあるどのオートキャンプ場においても、男性ソロキャンパーが多く、女性は少ない傾向にある。私たちは、「THE TAIMI HOUSE」

というキャンプ場の創設を提案する。これは浮島パークなんとう様を月に2回、女性キャンプだけの日とし、その日だけ名前が「浮島パークなんとう→THE TAIMI HOUSE」

に変えるというシステムとなっている。名前の由来としては、「キャンプをしてみたいが、やり方が分からない、道具を用意するは大変で困難である」という女性を「たいみー女子」と名付け、「やってみたい」「してみたい」の「タイ」と南伊勢町のゆるキャラである「たいみー」を掛け合わせ、印象に残りやすいような名前に出来るように工夫した。女性限定にすることで参加しやすくなり、初心者の女性でも、友人同士、母子、また1人での参加もしやすい。また、2ヶ月に1回程度イベントを開催する。狙いは、キャンプに興味があるがなかなか一歩踏み出せない人や、やってみたいけど不安があるといった人々が気軽に参加できるようにし、より地域を盛り上げることである。

【例】女性のためのキャンプイベント



図 11 たいみー(出典：南伊勢町ホームページ)



女性もしくは男性のベテランキャンパーが訪れ、テント設営のアドバイスやキャンプ道具の相談を行う。ベテランキャンパーは、防犯面からもサポーターとして動く。イベントの中でも、ワークショップ、アウトドアクッキング、キャンプ飯作り等、様々なことが行われる。

3-2 政策提案Ⅱ

図 12 女性向けイベントの 1 日 次に、一度だけでなく、何度も南伊勢町のキャンプ場を訪れたいと思ってもらえるための方法や、キャンプ事業をバックアップする方法を 4 つ提案する。

① 南伊勢町キャンプパスポート

内容は、南伊勢町にあるキャンプ場に訪れた際、キャンプ場受付に設置された QR コードをスマートフォンで読み取ると、たいみーのスタンプがゲットでき、5 個貯まるごとに、特典がもらえるというシステムである。特典は、南伊勢町の特産品とする。また、20 個貯まるごとに少し値段の高い特産品の中から好きなものを一つ選んでもらうというようにすると、より一層の効果が出るだろう。キャンプパスポートは、独立した南伊勢町のキャンプ場の連携を深めるだけでなく、南伊勢町全体を盛り上げると共に、交流人口やリピーターの増加が大いに期待できる。また、たいみーのスタンプは 1 月であれば着物のたいみー、5 月であれば鯉のぼりを持ったたいみーなど、季節などに合わせて数種類用意しておくことで、スタンプを集める楽しみにもなる。スマートフォンを使用する理由は、新型コロナウイルス対策として接触不要なことや、新たなスタンプを更新しやすいこと、無くしたりしてスタンプを収集することが面倒になることが減少することなどが挙げられる。

② THE TAIMI HOUSE の SNS 運営

現代の技術を活用し、SNS での周知にも力を入れていく。Instagram や Facebook、Twitter だけでなく、TikTok や YouTube など活用することで、若者の目に留まりやすい形にする。具体的には、期間限定で「#キャンペーン」というものを行う。「#キャンペーン」とは、若者の利用率が多い Instagram と TikTok を活用し、宿泊していただいた利用者の中で、Instagram と TikTok で「#南伊勢日和」と投稿していただいた方に、次回南伊勢町のキャンプ場で使える割引券またはお食事券をプレゼントする。リピーターの増加だけでなく、多くの人への周知が期待できる。若者をターゲットにして、若者の活用することの多い SNS での拡散をするべきであると考える。

③ ワイン作り体験

南伊勢町でワイン作りを体験してもらい、作ったワインは熟成のため、持って帰らずに、町内で保存する。キャンプや観光で南伊勢町を訪れる度にお客様は自分が作ったワインを飲み、その都度味わいの変化を楽しむことができる。これまで町のリピーターだった

人はさらに楽しみができ、新規のお客様も、自分のワインを飲むために何度も町を訪れる可能性が大きくなる。

地域活性化を図り、南伊勢町でワイン用ブドウを栽培して南伊勢ワインを作っている特定非営利活動法人南伊勢ワイナリーの会の協力を得ることや、みかんの生産が大変盛んなことから、みかん農家と連携し、規格外で売れないみかんなどをワインにすることも方法として考えられる。

④ キャンプする課

南伊勢町のキャンプ場全体の統括や SNS 運用、キャンプパスポートのスタンプやホームページ作成など、キャンプに特化した部署を南伊勢町役場につくることを提案する。その名も「キャンプする課」で、「よし、キャンプするか」といったように、みんなが南伊勢町で気軽にキャンプをしてほしいという願いからこの名称にした。町役場に少し変わったネーミングの部署があると、話題づくりや周知が期待できる。

第4章 総括

南伊勢町における産業人口の減少の要因には、南伊勢町全体の人口減少と少子高齢化が挙げられる。特に、若年層の男女が多く転出しており、20～44歳の親世代にあたる女性は、転出数が転入数を大幅に上回っている。また、南伊勢町の各々のキャンプ場でのヒアリング調査を通して、女性キャンパーはやはり少数であることがうかがえた。

上記のことから、私たち福井ゼミナールは、若年層、特に女性に着目し、交流人口の増加、後に移住・定住人口の増加を図ることが可能である事業、すなわち、「女性目線で考える、観光産業を活かしたキャンプ事業」を提案した。若者の流出の一つの要因であるアクセスの悪さを逆手に取り、長所として活かしたキャンプは、地域資源に恵まれた南伊勢町では最適であると共に、町の特徴や魅力を引き出せる。私たちが提案するキャンプイベント、そしてキャンプ場は、観光産業を地域の活力に繋げ、活性化させる事業になるだろう。

ヒアリングご協力

- ・ 2 four Camp 翔大様
- ・ 田曾白浜リゾート 南伊勢町木谷区長 村田保様、柴原寿彦様
- ・ 浮島パークなんとう 南正孝様
- ・ 南伊勢町観光商工課 観光交流係 西村恭祐様 山本誠樹様

参考文献

【1】オートキャンプ白書 2022、参加人口 23%増の 750 万人 キャンプ場建設の参入相次ぐ (閲覧日：2022.10.31)

<https://www.ryoko-net.co.jp/?p=108660>

【2】南伊勢町の地震災害対策 (閲覧日：2022.10.31)

[https://www.cbr.mlit.go.jp/kensei/machi_seibika/pdf/0451_shiryou4\(6\)minamiisecho.pdf](https://www.cbr.mlit.go.jp/kensei/machi_seibika/pdf/0451_shiryou4(6)minamiisecho.pdf)

【3】キャンプ女子株式会社、JR 博多シティにて防災キャンプのワークショップを開催！

【2022年1月8日（土）9日（日）】 (閲覧日：2022.10.31)

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000090.000046252.html>

【4】 ゆるふわキャンプ 一般社団法人宮城県キャンプ協会様のチラシより(閲覧日 : 2022. 10. 31)

https://camping.or.jp/wp/wp-content/uploads/2022/08/20221015_miyagi_Yurufuwa-Camp.pdf

【5】 2022 年今すぐ参加できるスマホスタンプラリー 5 選(閲覧日 : 2022. 10. 31)

<https://www.qkamura.or.jp/travelmagazine/detail.asp?id=197>

【6】 2021 年度事業報告書等(閲覧日 : 2022. 10. 31)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/document/024001028/hokoku/201970/2019年度事業報告書等.pdf>

【7】 南伊勢町総合計画（新絆プラン）(閲覧日 : 2022. 10. 31)

<https://www.town.minamiise.lg.jp/material/files/group/21/sinkuzunaplan.pdf>

【8】 南伊勢町ホームページ たいみーの部屋(閲覧日 : 2022. 10. 31)

<https://www.town.minamiise.lg.jp/admin/kankoujouhou/taimi/index.html>

【9】 ヒロシ(2022). 『大人のソロキャンプ入門』. SB クリエイティブ

【10】 寺田真輝(2022). るるぶゆるキャン△キャンプ BOOK. JTB パブリッシング

【11】 こいしゆうか(2022). ゆるっと始めるキャンプ読本. KADOKAWA

【12】 キャンプ白書 2022 2022 年 3 月 31 日発行 公益財団法人日本キャンプ協会 55 周年事業 キャンプ白書編集タスクチーム編集

現地調査の様子

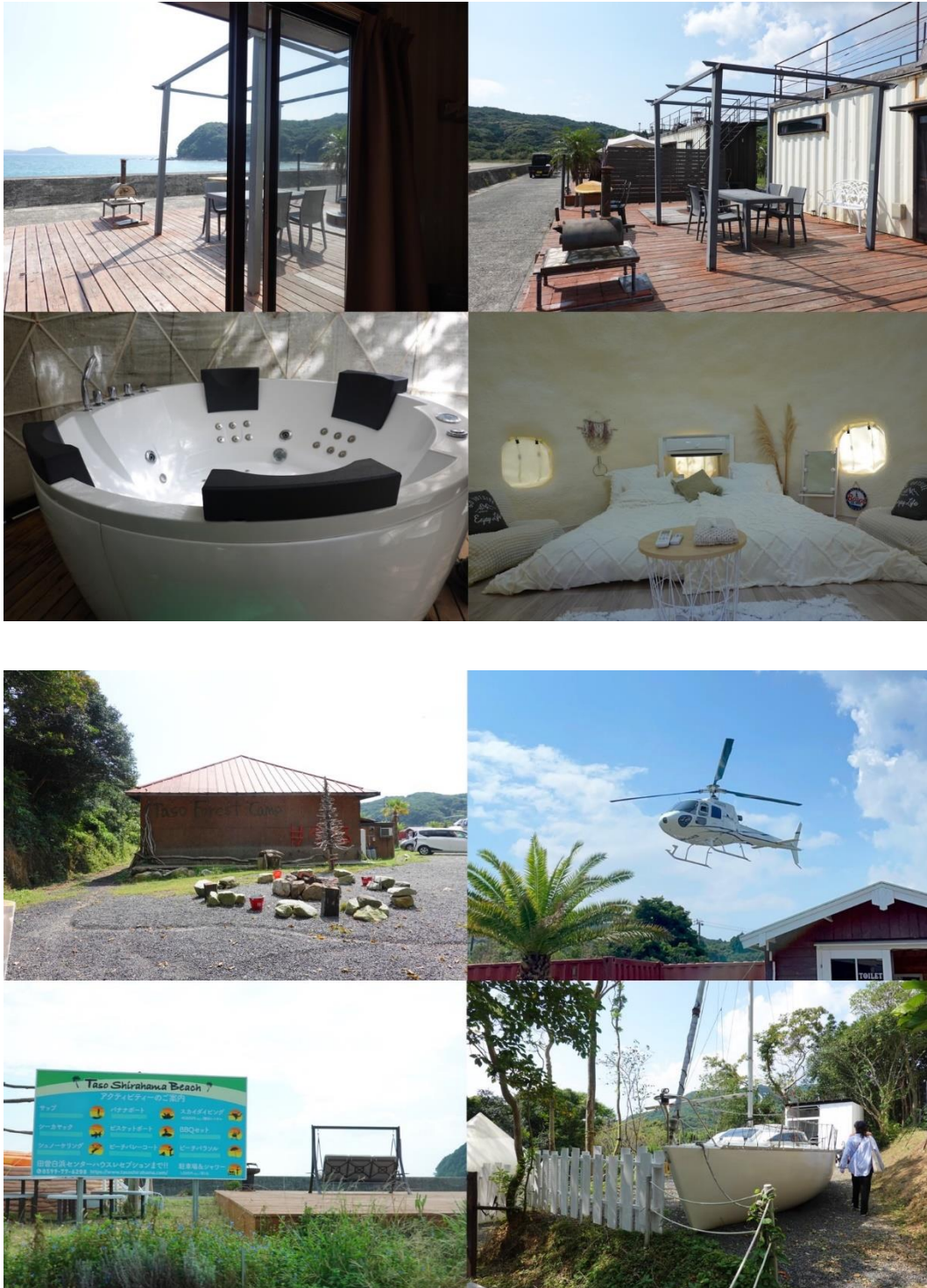
【南伊勢町役場様】



【 2 four Camp 様】



【田曾白浜リゾート様】



【浮島パークなんとう様】

